



横浜の一〇年

8 市民参加

市民参加の横浜方式を創造

横浜では全国に先がけてさまざまな形で市民の声を市政に反映する試みが行なわれてきた(表—2)。ここ数年來毎年八千通もよせられている市長への手紙の投稿傾向では、道路・下水など環境整備への要望が多かったが、昭和四十八年度は物価高の世相を反映して、市民の関心は消費経済へ集中した(表—3)。また早くから実施している市政相談については、区民相談室の扱い件数の伸びが著しく、市民の身近かにある区役所の果す役割の大きさがうかがわれる(図—43)。市民の地域活動の基礎である町内会自治会も数が増え(図—44)、特に郊外区の増勢がめざましい。また、地域社会を築く拠点として四十八年度から地区センターが設置されているが、さらに、今までの市民と市役所の対話集会のほか、四十八年には考え方や立場の違う市民相互の討議集会として横浜市総合計画の案をベースに「あすの横浜を話しあう区民の集い」が全市で延べ四二回開催され、これを契機に市民参加の新しい横浜方式が生まれようとしている。

表-2 市民参加のあゆみ

- 38年 8月第1回住民集會を港北区(現緑区)十日市場団地住民の主催で開く
- 8 第1回市政懇談會を開く
- 11 「市長への手紙を出す旬問」(第1回)始める
- 12 市民広間に市民相談室を設ける
- 39 3 一万人市民集會の具体的構想を發表、市会で否決さる
- 7 各区役所に区民相談室を設ける
- 40 6 消費生活モニター委嘱
- 11 第1回住民懇話會を開く
- 42 10 市長と市民の會の一万人市民集會を開く
- 11 市長、市幹部の市民相談が上大岡駅前をはじめとして街頭へ進出
- 43 4 市民局設置
- 7 区民相談室の機構拡充
- 44 4 市政モニターを30人から100人にする
- 10 市長への手紙を年間を通しての実施に改める
- 45 6 市長と市民の會の第2回一万人市民集會を開く
- 46 4 市長が市民の声を市政に反映させるため、区単位の協議會を設けていくと言明
- 47 12 市基本構想を考える各種団体の討議集會始まる
- 48 8 新総合計画を考える「あすの横浜を話しあう区民の集い」始まる
- 49 2 「あすの区を考える区民の集い」始まる
- 4 旭区民會議発足

〔資料〕 市民局



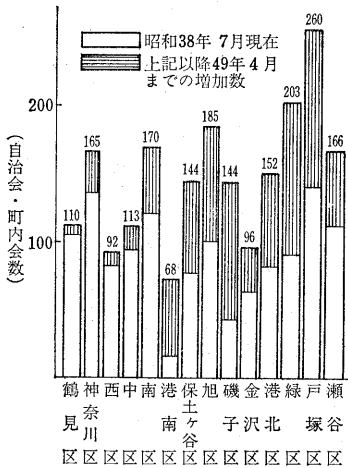
市民参加

表-3 「市長への手紙」年度別投稿順位

年度	順位	内容	通数	件数	1		2		3		4		5	
					内容別	%	内容別	%	内容別	%	内容別	%	内容別	%
38	12,692	25,874	道路舗装	15.1	下水道	6.4	ごみ収集	5.7	し尿くみとり	4.6	道路補修	4.2		
39	9,419	17,690	道路舗装	10.6	し尿くみとり	6.8	道路補修	6.3	下水道	5.5	ごみ収集	4.3		
40	9,724	18,787	道路舗装	10.9	下水道	7.0	ごみ収集	4.9	し尿くみとり	4.6	道路補修	3.5		
41	12,304	22,543	道路舗装	9.7	下水道	6.4	し尿くみとり	3.4	ごみ収集	3.3	道路補修	2.9		
42	7,127	12,062	道路舗装	10.1	道路安全施設	6.8	治水関係	5.3	市政方針	3.6	下水道	3.1		
43	15,309	24,441	道路舗装	9.4	下水道	6.4	道路補修	3.4	道路安全施設	3.2	市政方針	3.0		
44	6,245	8,702	道路舗装	10.2	下水道	6.5	道路改良	3.8	市営バス	3.7	道路安全施設	3.6		
45	6,984	9,451	道路舗装	6.0	下水道	4.9	道路改良	2.6	市営バス	2.5	公園	2.2		
46	8,293	10,271	道路舗装	7.1	下水道	6.1	都市計画路	4.4	道路改良	3.3	公園	3.2		
47	8,434	9,994	下水道	6.9	公園	5.9	道路舗装	5.3	市営バス	4.0	公害	2.7		
48	8,642	10,471	消費経済	5.0	老人福祉	4.7	学校施設	4.6	公園	2.2	下水道	1.9		

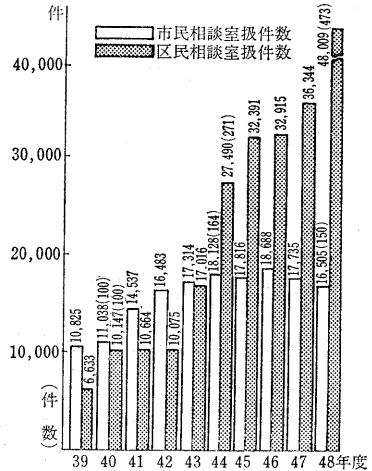
〔注〕 %は総投稿数の中に占める割合 〔資料〕 市民局

図-44 自治会町内会增加数区別比較



〔資料〕 市民局

図-43 市・区民相談室の相談件数推移



〔注〕 ①()は昭和40年度を100とした指数
 ②区民相談室開設が39年7月のため指数算出は40年を基礎とした〔資料〕 市民局